

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)富秋学園	階数	地上3F
建設地	和泉市富秋町	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	800人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年3月 予定	評価の実施日	2025年4月1日
敷地面積	39,822 m ²	作成者	株式会社内藤建築事務所大阪事務所 浪江明弘
建築面積	6,459 m ²	確認日	2025年4月1日
延床面積	12,139 m ²	確認者	株式会社内藤建築事務所大阪事務所 浪江明弘



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 太陽光発電設備やリサイクル材を採用し、環境負荷を低く抑えられる建築物となるよう配慮した。停電時の電源確保など、有事に備えた設備も確保している。		
Q1 室内環境 シックハウス対策として、F☆☆☆☆の建材を採用するなど室内環境に配慮している。	Q2 サービス性能 配管部材は、耐用年数の長いものを採用し、維持管理に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内には可能な限り緑化を設けたほか、敷地入口付近に樹木を計画することで周囲に溶け込む建物となるよう配慮した。
LR1 エネルギー 建築物内の設備はLED照明など高効率設備を採用することで建物から発生するエネルギー量の低減に努めた。	LR2 資源・マテリアル 省水器具を採用し、リサイクル材を積極的に使用するなど資源保護に努めている。	LR3 敷地外環境 特になし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	(仮称)富秋学園						
	建設地	大阪府 和泉市富秋町						
	用途/区分	学校(小中高)						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A	
①	CO2削減						3	
②	みどり・ヒート アイランド対策						3	
③	断熱性能						5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分		評価対象外			評価対象外	
④	エネルギー消費性能						4	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分		評価対象外			評価対象外	
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分					3	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告							
【評価項目】								
	項目	評価内容					スコア	評価
①	CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.4	3
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内)		1. 生物環境の保全と創出			2.0	3
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内)		3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	
	温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環		2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	
③	断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー		1. 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	5
④	エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー		3. 設備システムの効率化			3.5	4
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー		2. 自然エネルギー利用			2.0	—
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	0
	その他							
		技術の名称			考慮事項			
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項	BPI _m =0.66 BEI _m =0.75						